



## ときめき、わき立つ、港町「伏木」の伝統と心。

伏木は、恵まれた地の利から、天平時代には越中国府が置かれ、万葉の歌人でもあった大伴家持が国守として、赴任。また近世からは越中有数の港町として栄えてきました。

伏木曳山祭は、その港町の海上安全と海岸を鎮護する伏木神社の春の祭礼として行われます。始まりは江戸後期の1814年(文化11年)。海岸にあった神社が波で崩れ、現在地へご神体をお渡しする時のお乗り物として曳山が造られたと伝えられています。

神座に七福神がまつられた壮麗な曳山は、まさに港町伏木の歴史文化のシンボルであり、かぎらない誇りです。

昼は美しい花傘を広げた花山車として、夜には約360個もの提灯で彩られた提灯山車として、潮風をまとい行く粋と意気がわき立つような鮮やかさ、勇壮さは人々をどよめきの渦でつつみます。



伏木神社

昼は春の爽やかな潮風と共に

## 花山車

(はなやま)



夜は激しく燃える炎のごとく

## 提灯山車

(ちようちんやま)

### 「かつちゃ」に燃える、伏木の心意気。

先端に付長手という約5mの檜の太木を、大砲のごとく取り付けられた曳山の重さは約8トン。宵闇が迫ると、花山車から提灯山車へと姿を変え、期待と興奮の渦に町全体が包まれます。

やがて腹の底に共鳴するように山鹿流出陣太鼓が鳴り響くと、地鳴りとともに動き、駆ける山車と山車が全力でぶつかり合います。これが祭りの最高潮「かつちゃ」です。

「かつちゃ」は、伏木の心意気が輝き燃える一大イベントです。



### ライトアップ

5月第3土曜日の前日  
19時～21時

山倉前にて、花山車のライトアップとともに、威勢のいい騾子で祭の前夜を盛り上げます。



町・山車	いっさかまち 「石坂町」 字山車	ほろまち 「寶路町」 せんまい山車	ほんまち 「本町」 がながら山車	かんまち 「上町」 さざ山車	なかまち 「中町」 ひょうたん山車	みなとまち 「湊町」 ちようちよう山車	じゅうしちけんちよう 「十七軒町」 ほら貝山車
はなやま 花山車							
だし(鉾留) ふくじん 福神 ままにんがう 前入形 こうへい 後屏(鏡板)	かかしよ じゆ ぶちろちりや 楷書の壽の字(不老長寿) たかごてん 大黒天(万延元年1860年作) からこ 唐子(操り人形) かき じどう 菊慈童(中国の故事)	かさ せんいんぶんどう ふうきん さい 重ね千枚分銅(富貴蓄財) えびす 恵比須(制作年不詳) からこ 唐子(操り人形) せいおうほ 西王母(中国の故事)	これい ほうりょうしよく 鉛鈴(宝来招福) ふんかいてん 弁財天(天明元年1781年作) わ こ さんぼんやう 和三番叟(操り人形) かん ぶてい 漢の武帝(中国の故事)	さざりんどう じよんじやうせい 笹竜胆(延寿長生) ほいで 布袋(天明元年1781年作) からこ 唐子(操り人形) こうせきこう ちゆうけい 黄石公と張良(中国の故事)	せんなんりやうたん しぜんまんざい 千成瓢箪(子孫萬代) ふくろくじゆ 福祿寿(天明元年1781年作) からこ 唐子(操り人形) せきやうつう 郝大通(中国の仙人)	こうちゆう さいほうふくじゆ 胡蝶(財宝福德) びしんもんてん 毘沙門天(明治34年1901年作) からこ 唐子(操り人形) こうせきこう ちゆうけい 黄石公と張良(中国の故事)	ほら貝い みるいんざう 法螺貝(未来永劫) じよんじゆ 寿老人(平成16年復元) からこ 唐子(平成20年復元) つばね 鶴亀(中国の故事)
特徴	「菊慈童」に因んだ大輪菊の彫り ものが見事です。高欄の上段が一 連の透かし彫りふうの丸彫朱欄 になっており、下山の小壁部分が ハメ込み式の「箱欄間」になってい ます。	後屏の主座に「標山」の西王母を 立て、上山の彫りものは西王母と 山神の恵比須(波清文と「高砂」の 嬭姥)ゆかりのモチーフによって、 整合的に装われています。	全体に金碧の効果が発出しており、 特に竹林の緑色との対照は鮮 やかです。また白漆塗の透かし欄 間は独自のものです、出来映えも見事 です。	文人画の「蓬萊群仙図」を偲ば せる多数の仙人彫刻と、その構図 の巧みなことで、躍動的な造形と 合わせて伏木曳山の白眉と言えま す。	下山の構造が伊達柱になってい るなど、行装が他の山とは違って います。高欄の欄干に止ませた 小鳥はこの山の独特のデザイン で、下山の彫物の均整のとれた美し さと共に見どころのひとつです。	唐木の後屏や褐色で統一した上山 の彫刻など、全体に男性的な偉容 を誇っています。また擬宝珠柱 や横木類の朱と金地との鮮やか なコントラストも見事です。	十七軒町の曳山は、明治の大火で 焼失しましたが、伏木町とけんか山 が永遠に発展することを願う復元 いたしました。高欄には、「未来永劫」 を表す鶴のほか、親子獅子や四神 獣の彫刻が施されています。